

救 急 活 動

1. 救急活動状況

(1) 救急活動状況の対前年比

平成27年中の出場件数は219,876件、搬送人員は178,907人で、前年に比べ出場件数は1,595件(0.7%増)の増加、搬送人員は2,499人の増加(1.4%増)となった。

区 分	平成27年	平成26年	対前年比	1日当り
出 場 件 数	219,876	218,281	1,595	602.4
搬 送 人 員	178,907	176,408	2,499	490.2
現 場 処 置 人 員	6,071	6,534	463	16.6
医 師 搬 送 件 数	1	4	3	0.0
資 器 材 等 輸 送 件 数	1	4	3	0.0
不 搬 送 件 数	41,760	42,804	1,044	114.4
市 域 内 出 場 件 数	219,765	218,189	1,576	602.1
市 域 外 出 場 件 数	111	92	19	0.3

(2) 人口1万人当りの出場件数と搬送人員の推移

平成27年中に人口1万人当たりでは816.9件出場し、664.7人搬送している。これは、市民12.2人に1件出場し、15.0人に1人搬送したことになる。

年	出 場 件 数	搬 送 人 員
平成23年	787.1(12.7人に1件)	624.3(16.0人に1人)
平成24年	802.7(12.5 ")	637.8(15.7 ")
平成25年	820.3(12.2 ")	655.1(15.3 ")
平成26年	812.4(12.3 ")	656.5(15.2 ")
平成27年	816.9(12.2 ")	664.7(15.0 ")

2. 事故種別救急活動状況

(1) 出場件数の対前年比

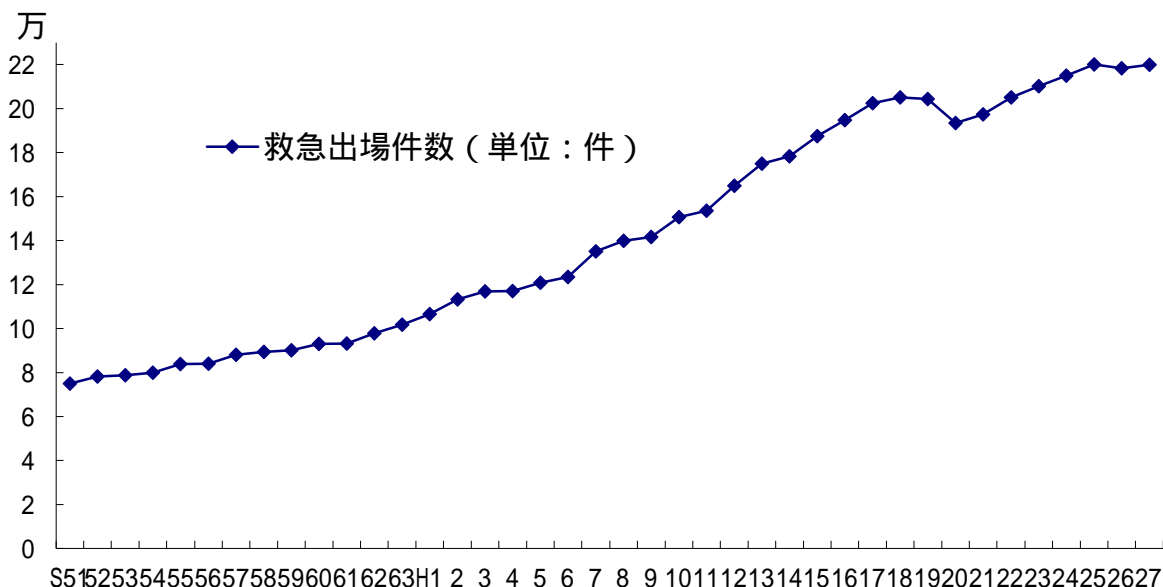
事故種別で見ると、急病が147,694件と最も多く67.2%を占めており、次いで一般負傷35,089件(16.0%)、交通事故15,828件(7.2%)となり、急病は2,003件の増加となった。なお、この3種別で198,611件出場し、全体の90.3%を占めている。

()は%

事故種別	平成27年		平成26年		対前年比	
	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員
計	219,876 (100.0)	178,907 (100.0)	218,281 (100.0)	176,408 (100.0)	1,595	2,499
火災	912 (0.4)	148 (0.1)	1,054 (0.5)	175 (0.1)	142	27
自然災害	5 (0.0)	5 (0.0)	8 (0.0)	7 (0.0)	3	2
水難	90 (0.0)	25 (0.0)	68 (0.0)	27 (0.0)	22	2
交通	15,828 (7.2)	13,503 (7.5)	16,762 (7.7)	14,429 (8.2)	934	926
労働災害	1,387 (0.6)	1,355 (0.8)	1,384 (0.6)	1,346 (0.8)	3	9
運動競技	1,016 (0.5)	998 (0.6)	948 (0.4)	927 (0.5)	68	71
一般負傷	35,091 (16.0)	26,426 (14.8)	34,545 (15.8)	25,905 (14.7)	546	521
加害	2,913 (1.3)	1,908 (1.1)	3,140 (1.4)	2,051 (1.2)	227	143
自損行為	2,235 (1.0)	1,391 (0.8)	2,545 (1.2)	1,595 (0.9)	310	204
急病	147,692 (67.2)	121,384 (67.8)	145,691 (66.7)	118,898 (67.4)	2,001	2,486
その他	12,707 (5.8)	11,764 (6.6)	12,136 (5.6)	11,048 (6.3)	571	716

(2) 救急出場件数の推移

救急出場件数は、平成25年に過去最多となり、平成26年は若干減少したが、平成27年は前年比0.7%増加し、219,876件となった。



(3) 事故種別搬送人員の推移

急病、一般負傷、による搬送人員は年々増加している。

年	出場件数 (件)	搬送人員 (人)	内 訳 (人)										
			急病	一般負傷	交通事故	加害	自損	火災	労働災害	運動競技	水難	自然災害	その他
平成23年	210,194	166,721	111,775	23,642	15,270	2,124	1,677	207	1,173	879	25	4	9,945
平成24年	214,953	170,801	115,339	24,178	14,880	2,123	1,675	193	1,235	918	26	24	10,210
平成25年	220,131	175,787	118,655	25,031	14,996	2,030	1,577	202	1,291	886	31	4	11,084
平成26年	218,281	176,408	118,898	25,905	14,429	2,051	1,595	175	1,346	927	27	7	11,048
平成27年	219,876	178,907	121,384	26,426	13,503	1,908	1,391	148	1,355	998	25	5	11,764

(4) 事故種別搬送人員構成比の推移

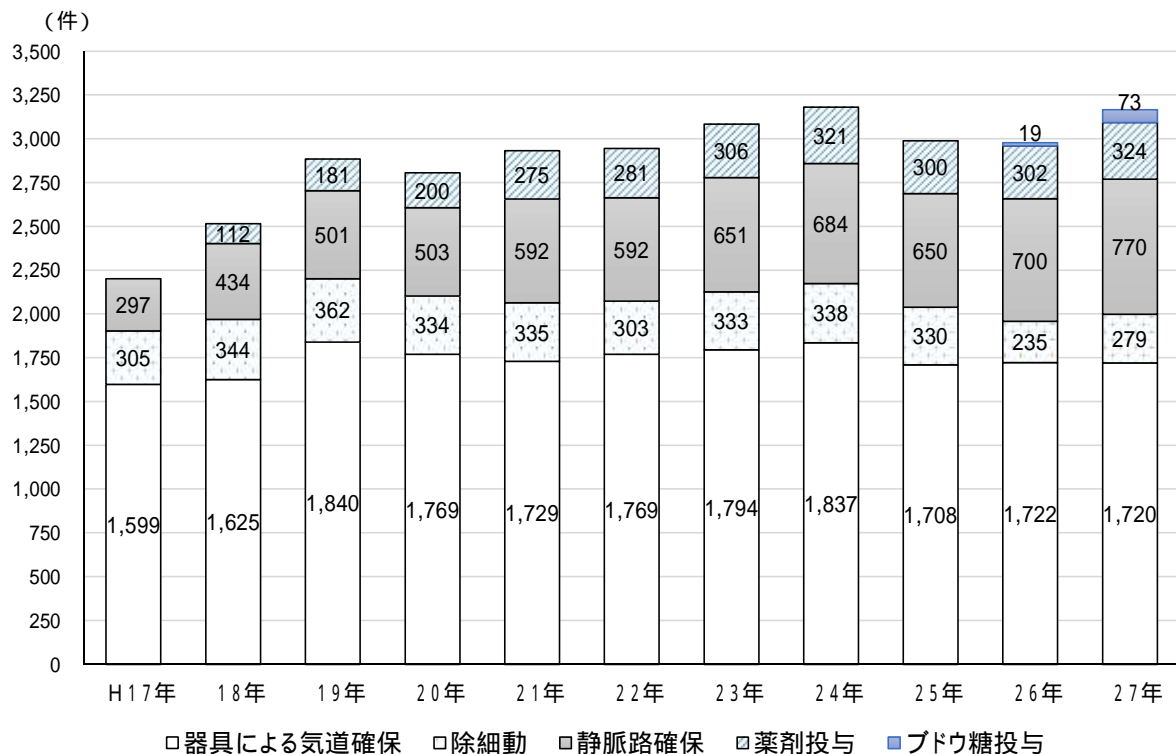
急病、一般負傷の占める割合が増加傾向を示している。

	急病	一般負傷	交通事故	その他
平成23年		67.0%	14.2%	9.2% 9.6%
平成24年		67.5%	14.2%	8.7% 9.6%
平成25年		67.5%	14.2%	8.5% 9.8%
平成26年		67.4%	14.7%	8.2% 9.7%
平成27年		67.8%	14.8%	7.5% 9.8%

3. 救急救命士活動状況と救命率

(1) 救急救命処置実施数の推移

平成27年中の「器具による気道確保」は1,720件、「除細動」は279件、「静脈路確保」は770件、「薬剤投与」は324件、「ブドウ糖投与」は73件、合計3,166件であった。



	計	器具による 気道確保	除細動	静脈路確保	薬剤投与	ブドウ糖 投与
平成17年	2,201	1,599	305	297	-	-
平成18年	2,515	1,625	344	434	112	-
平成19年	2,884	1,840	362	501	181	-
平成20年	2,806	1,769	334	503	200	-
平成21年	2,931	1,729	335	592	275	-
平成22年	2,945	1,769	303	592	281	-
平成23年	3,084	1,794	333	651	306	-
平成24年	3,180	1,837	338	684	321	-
平成25年	2,988	1,708	330	650	300	-
平成26年	2,959	1,722	235	700	302	19
平成27年	3,166	1,720	279	770	324	73

平成16年以降の気道確保には、平成16年7月から実施可能となった気管挿管を含む。

除細動については、平成15年4月から医師の具体的指示が必要でなくなった。

平成18年4月より薬剤投与(アドレナリン投与)が可能となったため、平成18年中のデータより計上。

(2) 主な心肺機能停止前の救急救命処置実施状況

血糖測定器を用いた血糖測定 825 件

低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与 73 件

ショック及びクラッシュ症候群を疑う傷病者に対する静脈路確保及び輸液 23 件

(3) 心肺機能停止傷病者の生存率等の状況

平成 27 年中に救急搬送された心肺機能停止傷病者のうち、心原性かつ市民により目撃のあった症例の 1 ヶ月後生存率は 16.4%、1 ヶ月後社会復帰率については 12.6%となっている。

年	心原性かつ市民により目撃のあった心肺機能停止傷病者数 (人)	1 ヶ月後生存者数 (人)	1 ヶ月後生存率 (%)	1 ヶ月後社会復帰者数 (人)	1 ヶ月後社会復帰率 (%)
平成 21 年	642	89	13.9	46	7.2
平成 22 年	598	79	13.2	53	8.9
平成 23 年	651	111	17.1	72	11.1
平成 24 年	678	105	15.5	67	9.9
平成 25 年	633	86	13.6	59	9.3
平成 26 年	691	105	15.2	72	10.4
平成 27 年	744	122	16.4	94	12.6

4 . 救急出場件数の高順位

救急出場件数については、救急隊別では、城東第1救急隊の出場が5,047件と最多で、1日平均では13.8件出場している。

行政区別では、西成区が19,374件と最多であり、1日当りの出場件数は53.1件であった。また、各区の平均出場件数は、9,162件であった。

日別では、8月3日が838件と最多であり、1日当りの平均出場件数は602件であった。

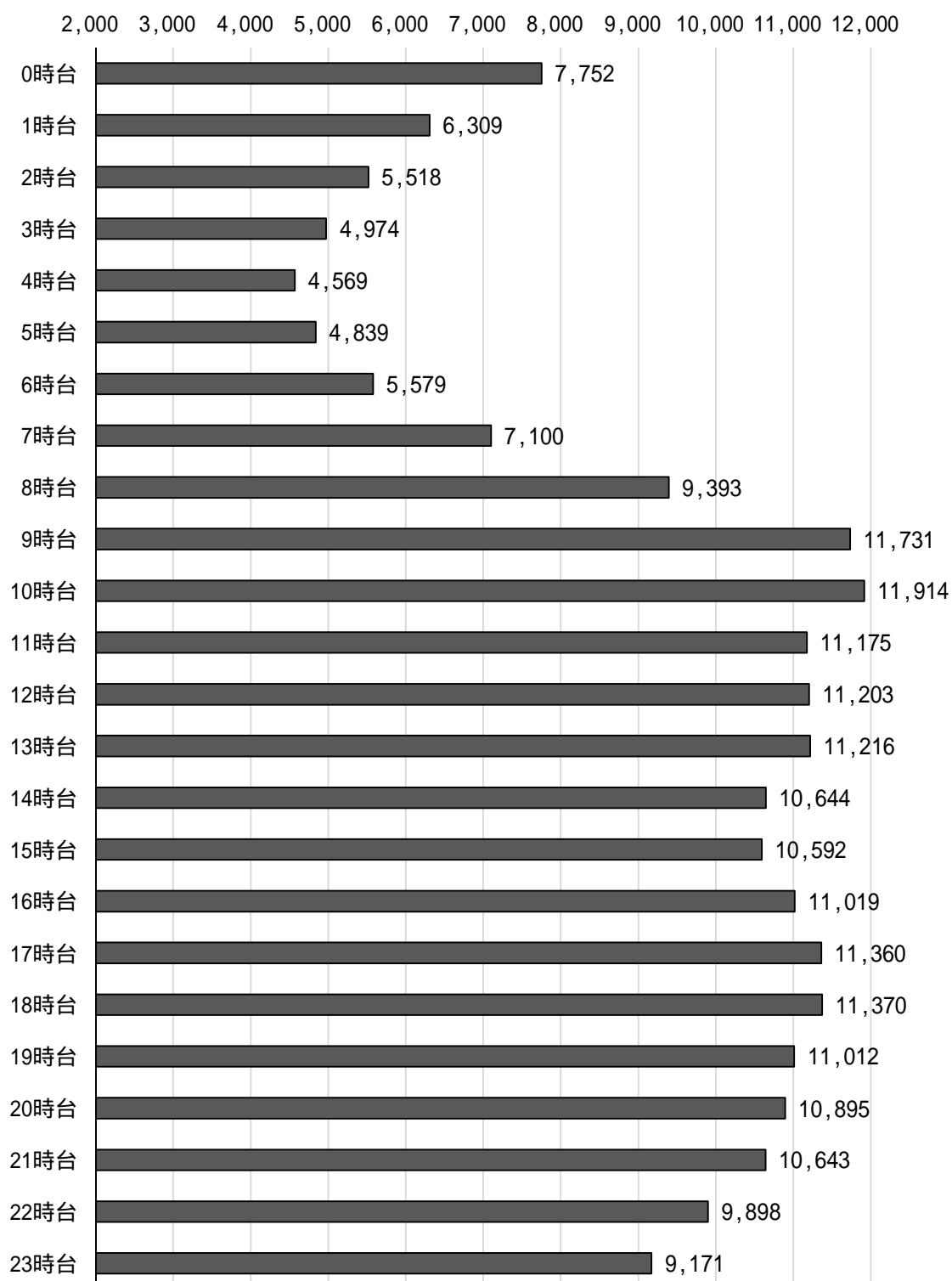
時間別では、10時台が11,914件と最多で1.8分に1件の出場となっている。

区 分	第1位	第2位	第3位	平均	備考
隊別出場件数	城東1	海道1	浮田		第2表
(1日当りの出場件数)	5,047件 (13.8)	5,020件 (13.8)	4,867件 (13.3)	3,546件 (10.0)	参 照
行政区別出場件数	西成区	北区	中央区		第5表
(1日当りの出場件数)	19,374件 (53.1)	16,480件 (45.2)	14,925件 (40.9)	9,162件 (25.1)	参 照
日別出場件数	8月3日	8月1日	1月5日		第9表
	838件	836件	824件	602件	参 照
時間別出場件数	10時台	9時台	18時台		第6表
(出 場 頻 度)	11,914件 (1.8分に1件)	11,731件 (1.9分に1件)	11,370件 (1.9分に1件)	9,162件 (2.4分に1件)	参 照

5. 時間別出場件数

出場件数を時間別のグラフで見ると、10時台が最多となり、4時台が最少となっている。

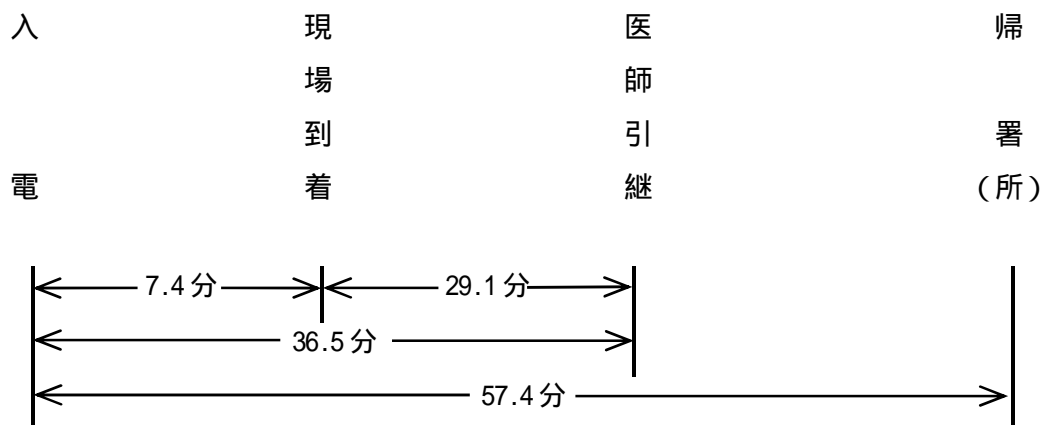
(単位：件)



6. 救急活動所要時間

(1) 入電から帰署までの平均所要時間

119番入電から救急現場到着、搬送先医療機関の医師に引継ぐまでの活動所要時間はそれぞれ7.4分、36.5分となっている。



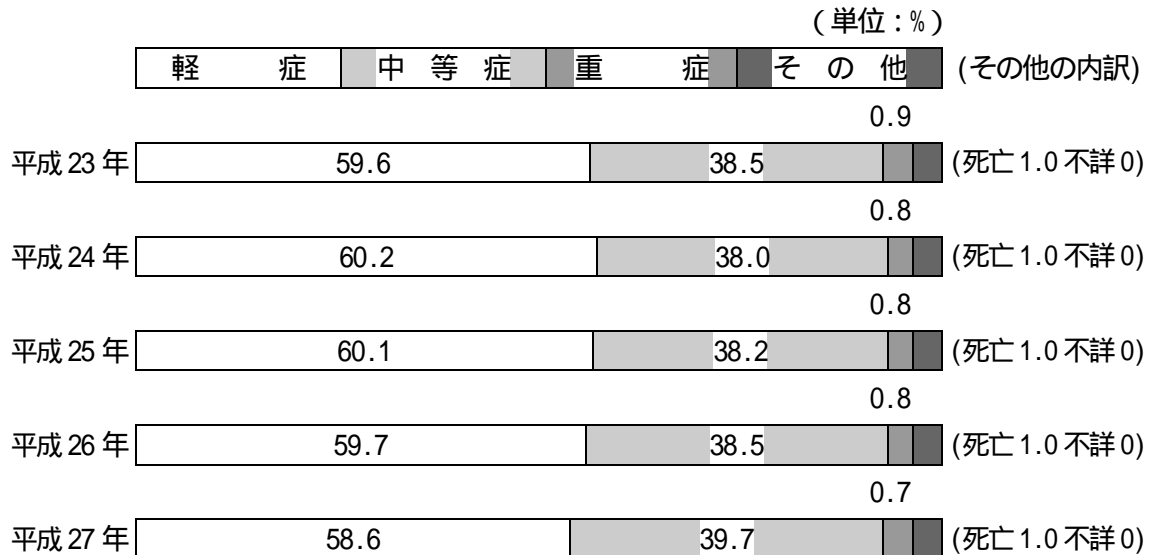
(2) 救急車が出場してから病院に到着するまでの時間別構成比の推移

(単位：%)

年	20分未満	20～29分	30～59分	60～119分	120分以上
平成23年	16.4	40.1	38.1	4.8	0.6
平成24年	14.2	40.3	40.2	4.8	0.5
平成25年	12.4	40.1	42.2	4.8	0.5
平成26年	11.8	40.8	42.3	4.6	0.5
平成27年	11.3	40.2	43.4	4.6	0.5

7. 程度別搬送状況

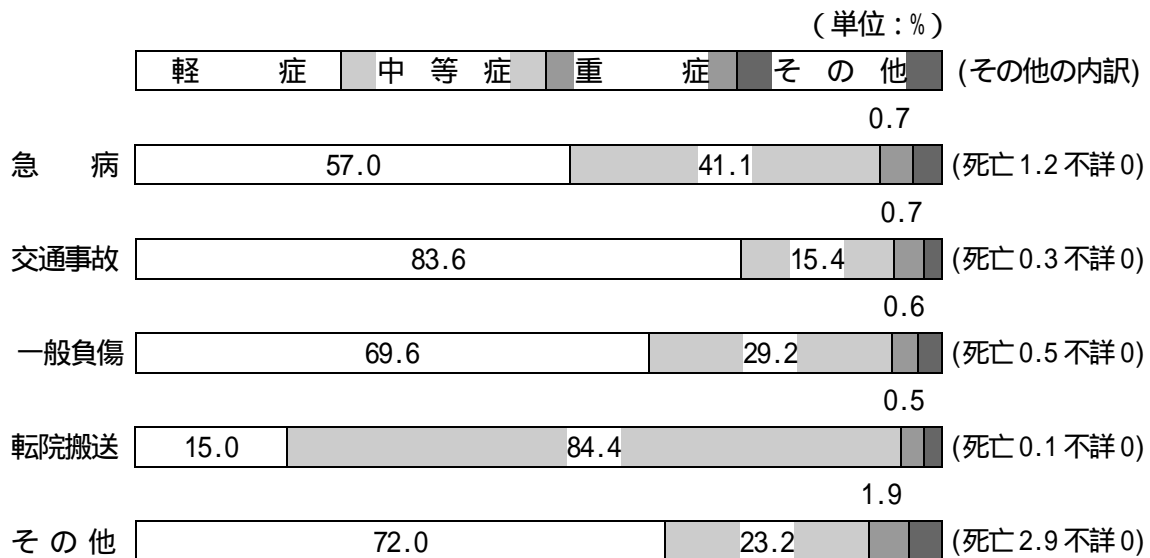
(1) 搬送人員構成比の推移



(2) 事故種別搬送人員の構成比

搬送人員を事故種別で見ると、交通事故、一般負傷では軽症の割合が高く、それぞれ 83.6%(11,285 人) 69.6%(18,384 人)を占めている。

一方、急病では軽症の割合は 57.0%(69,167 人)と交通事故、一般負傷に比べて低く、中等症については 41.1%(49,903 人)と高くなっている。



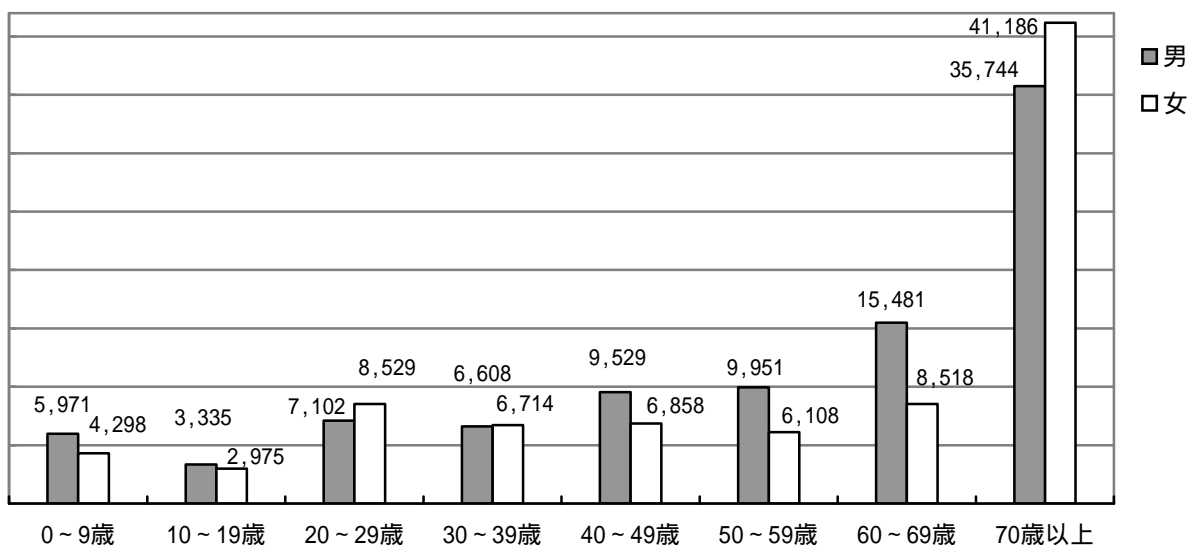
8. 性別・年齢層別搬送状況

(1) 性別・年齢層別搬送人員

搬送人員を性別で見ると、男性が93,721人(52.4%)、女性が85,185人(47.6%)となり、60歳代までは男性が多い傾向を示すが、70歳以上では女性が多い。

年齢層の性別で見ると、男性、女性共に70歳以上がそれぞれ35,744人(38.1%)、41,186人(48.3%)と最も多くなっている。

(単位：人)



(2) 搬送人員の年齢層別構成比の推移

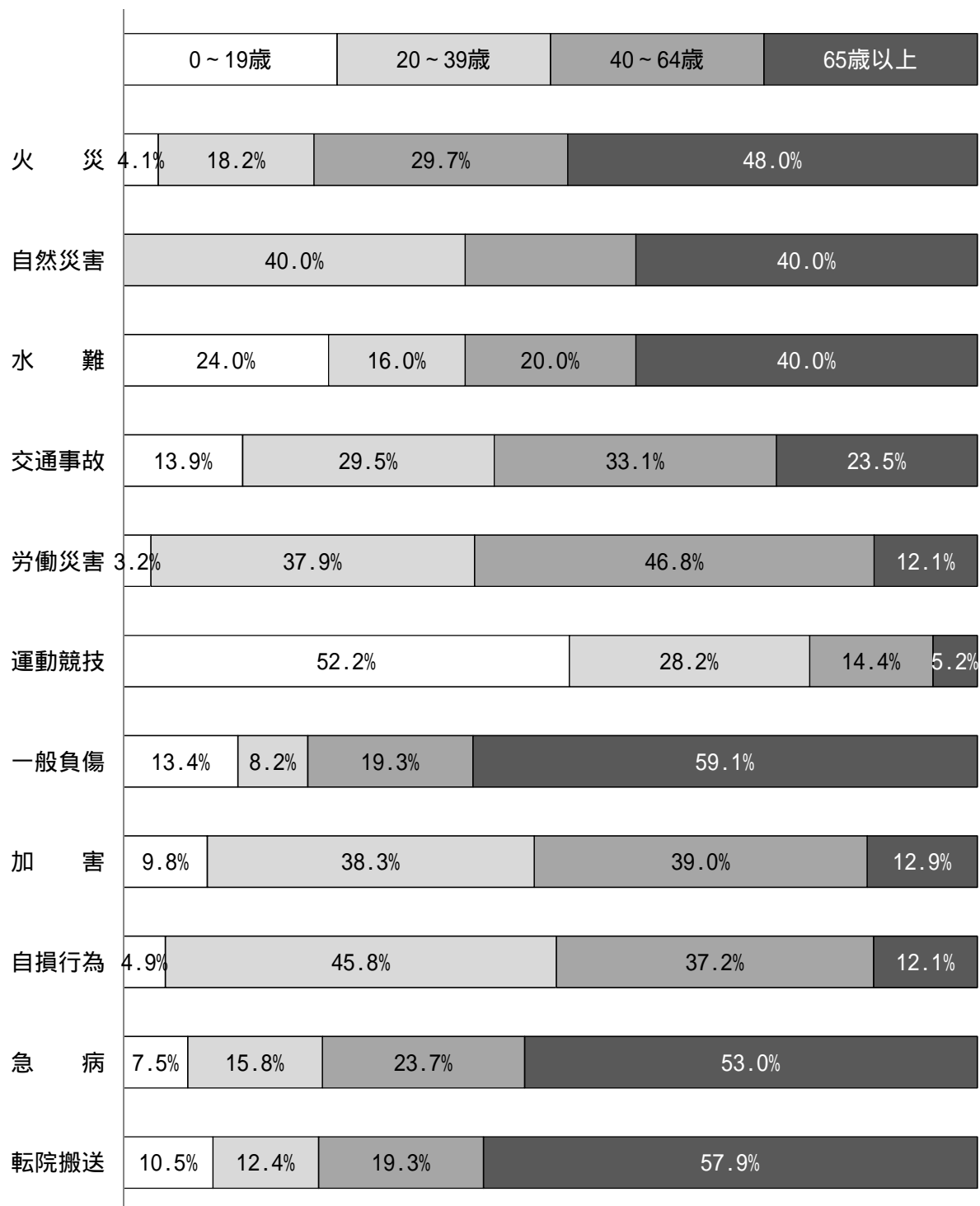
搬送人員を年齢層別で見ると、65歳以上の高齢者の割合は50.7%(90,688人)となり、年々増加している。

(単位：%)

	0～19歳	20～39歳	40～64歳	65歳以上
平成5年	13.9	24.2	39.6	22.3
平成10年	12.4	23.0	36.8	27.8
平成15年	12.0	23.0	30.7	34.3
平成20年	10.5	20.8	27.4	41.3
平成23年	10.0	18.5	26.0	45.5
平成24年	10.0	18.0	25.4	46.6
平成25年	9.6	17.2	24.6	48.6
平成26年	9.7	16.6	24.3	49.4
平成27年	9.3	16.2	23.8	50.7

(3) 事故種別・年齢層別構成比

年齢層別の搬送人員を事故種別の割合で見ると、急病、一般負傷で65歳以上は、それぞれ53.0% (64,375人) 59.1% (15,614人)と多くを占めているが、交通事故では40歳以上が56.6%(7,644人)と多くなっている。



9. 医療機関開設主体別搬送状況

傷病者を収容した医療機関は、私的医療機関が141,088人で78.9%を占めている。

(単位：人)

区分	計	国立	公立	左記以外の 公 的	私的	その他
計	178,907	3,182	14,253	20,377	141,088	7
二次・三次救急医療機関	162,880	2,927	10,319	13,373	136,261	-
初期救急医療機関	947	-	1	-	946	-
その他の医療機関	15,072	255	3,933	7,004	3,880	-
その他の場所	8	-	-	-	1	7

10. 転院搬送状況の推移

転院搬送は、医療機関からの要請により、当該医療機関に収容されている傷病者を他の医療機関へ搬送することで、11,764人と、全搬送人員の6.6%を占めている。

また転院理由は、当該医療機関での処置困難が7,701人(65.5%)と6割を超え、次に専門外が1,737人(14.8%)となっている。

年	計 (人)	全搬送人員に 対する構成比 (%)	理 由 別 (人)					後送 (人)
			ベッド満床	専門外	病床なし	処置困難	その他	
平成23年	9,945	6.0	287	1,472	396	6,212	445	1,133
平成24年	10,210	6.0	303	1,461	434	6,361	452	1,199
平成25年	11,084	6.3	342	1,559	478	7,108	474	1,123
平成26年	11,048	6.3	267	1,624	343	7,285	442	1,087
平成27年	11,764	6.6	390	1,737	370	7,701	450	1,116

11. 転送状況の推移

(1) 回数別搬送人員

転送とは、何らかの理由により、救急隊が当初搬送した医療機関等で収容できなかったため、当該救急隊が継続して他の医療機関等へ搬送した場合をいい、平成27年中は605人と、全搬送人員の0.3%となっている。

(単位：人)

年	転送なし (A)	転送あり					搬送人員 (C)=(A)+(B)	転送率(%) (B) / (C) × 100
		1回	2回	3回	4回	小計 (B)		
平成23年	165,965	743	12	1	-	756	166,721	0.5
平成24年	170,106	683	12	-	-	695	170,801	0.4
平成25年	175,151	630	6	-	-	636	175,787	0.4
平成26年	175,813	581	14	-	-	595	176,408	0.3
平成27年	178,302	599	5	1	-	605	178,907	0.3

(2) 理由別転送回数

転送理由は、処置困難が247回と最も多く、40.4%となっている。

(単位：回)

年	計	ベッド満床	専門外	処置困難	その他
平成23年	770	75	315	269	111
平成24年	705	54	273	279	99
平成25年	642	38	240	265	99
平成26年	609	50	236	241	82
平成27年	612	47	219	247	99

12. 要保護傷病者搬送状況の推移

平成 27 年中の要保護傷病者の搬送人員は 1,677 人と、近年減少傾向にある。なお、割合としては全搬送人員の 0.9%となっている。

(単位:人)

年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
要保護傷病者 搬送人員数	2,524	2,118	2,239	1,810	1,677

要保護傷病者

- ・生活保護法に定める要保護者の傷病者(ただし、被保護者を除く)
- ・行旅病人及び行旅死亡人取扱法に定める行旅病人又は行旅死亡人に準ずる者